



自由民主党福岡市議団

稲員としお 市政報告

2022年号 Vol.6



令和3年度

- 教育・子ども委員会 副委員長
- 福岡市住宅審議会
- 少子・高齢化対策特別委員会 副委員長
- 中央区剣道連盟理事
- 九州大学移転・跡地対策協議会理事
- 福岡市空手道連盟顧問
- 中央保健所運営協議会
- ニューはつらつスポーツの会顧問(ソフトボール・バレーボール)



令和2年6月議会において

健康づくりサポートについて

現在人生100年時代といわれております。本市においても様々な事業や検診を実施しておりますが、その中に目の検診が入っていません。場合によっては失明をすることも、目の病気に「緑内障」があります。早期発見・早期治療をすることで病気の進行を抑えることも可能である為、本市の検診に目の検診を入れる様求めています。



(参考)
平成29年度緑内障患者の全国ベース推計数
※40代から急激に患者数が増えています。

30代	40代	50代	60代	70代
9千人	4万9千人	10万2千人	26万2千人	37万7千人



又、本市小学校で実施されている学校歯科医による「歯みがき指導」について全小学校で実施されていない現状をふまえ、永久歯に生え変わる小学生の時期にしっかりと歯みがきの重要性を身につけておく事が大切です。高齢になっても「8020運動」の80歳で20本の歯を残す事につながり、歯の本数と認知症との関係もある為、この「歯みがき指導」(学校歯科医による)を全小学校で実施する様求めています。

令和2年6月議会において

ひとり親家庭の支援について

コロナ禍の中、保育園や幼稚園、小学校(留守家庭子ども会)が臨時休園、休校をした場合、保護者の中にはどうしても仕事を休めない職種の方もいる事から民間の家事代行業やベビーシッター業者と連携し、家庭訪問型の見守り支援を提案しました。(令和3年度からベビーシッターによる家庭訪問型見守りサービスが開始されました)又、保護者の仕事の都合や体調不良などにより我が子を保育園等に送迎ができない場合など、かわりに送迎をしたり、一時的に預かる事の出来る「ファミリーサポートセンター事業」がありますが利用希望者に対してサービス提供者が少ない為、この事業の充実を求めています。この事業は一人親家庭世帯の親への支援としても有効であると考えております。



令和2年12月議会において

本市の子ども子育て支援施策について (晩婚化・晩産化の現状を踏まえて)

少子化対策として子ども達が将来の結婚などライフプランを主体的に描き健康で幸福な生活ができる為の教育の充実の中で、生物学的な、妊娠に関する人の体の仕組みを知っておく事の必要性があること、又、時代の変化と共に本市の子育て支援施策の見直しの必要性和様々なニーズをつかみ新たな支援策も考える様求めています。



令和2年12月議会において

観光産業の支援について

コロナ禍の中、緊急事態宣言発出により観光客及び、来福者の激減により本市の観光産業にも大きなダメージが出ております。そうした中、市内の宿泊事業者にとっては客室稼働率の低下により経営難に陥っております。よって宿泊事業者向けの支援の強化とコロナ禍における「新しい生活様式」も踏まえた観光振興を求めました。



「思いやり」の心を持って市政へ取り組んで参ります。

令和2年12月議会において

民間スポーツ施設の活用について

民間の所有する「パピオアイスアリーナ」の閉館予定との発表がなされた為、九州唯一の常設スケートリンクである「パピオアイスアリーナ」を本市としても支援し存続させて頂きたいとの思いも込め質問をしました。市民の皆様がスポーツをする場を増やしていく事は大切ですが、財政面からみても新たに施設を増やしていく事は厳しいと考えます。従って民間（大学等）の体育館や施設と連携をし、市民の皆様が利用できる様にすることで様々な課題の解決にも繋がるとの考えから、大学等へ協力を求めていく様提案しております。又、小学校の夏休み「学校プール開放事業」が猛暑で、ここ数年中止となっている為、「学校プール開放事業」を民間のプールと連携する事で継続する様求めました。



令和3年度から民間プールとの連携が開始されました

令和3年8月に副市長へ「パピオアイスアリーナを守る会」と共に施設存続の為に市としても資金面での支援をする様に、要望書を提出しました。

副市長より資金面での支援を前向きに検討する旨の答弁を頂きました。

令和3年6月議会において

小学校における英語の教科について

市立小学校において5・6年生に対して、英語を教科とする授業が開始されている中、英語の授業をにがてとする教員も多く専科教員の配置を現在の24名から更に拡充をし、専科教員から学ぶ場合と、そうでない場合とで児童の理解力に差が出来ない様に求めました。又、グローバル人材育成の一環でもある英語の教科化ですが、そのグローバル人材を育てる上でもっとも大切な日本語の学びの充実と日本の歴史・伝統・文化・精神を学ぶ機会を増やしていく様求めました。



お年寄りが敬われ、友人・知人が信頼し合え、子ども達が大切にされる街へ

そして、誰もがチャレンジでき再チャレンジできる社会の実現に向け「思いやり」の心を持って市政に邁進して参ります。又、新型コロナウイルスワクチンは第3回目の接種が始まっております。通常の生活に近い状態に戻る様、力を合わせてこの困難を乗り越えていきましょう。

令和3年6月議会において

植物園の活性化について

植物園入口横に立体駐車場を建設したことにより、植物園側からの入場者が増すと予想されます。しかしながら植物園を素通りして動物園へ直行する来訪者も多いのではないかと懸念もあります。本市では既に「一人一花運動」を推進しておりますが、市民の皆様には植物園を訪れ季節の花々を愛で、園に愛着をもつていただき福岡市の魅力向上の為に、「一人一花運動」の拠点地として更なる活動をしていただきたく思っております。動物園のリニューアルも進んでおりますが、本市の動・植物園が更に市民の皆様がのいこの場として愛され、観光の名所、情報発信の場となる様に求めております。



令和3年3月条例予算特別委員会において

新型コロナウイルスのワクチン接種について とコロナ禍後に向けての本市について

新型コロナウイルスワクチン接種を開始するにあたり、ワクチン接種の予約がキャンセルになった場合、そのワクチンを無駄にしない為の対応等、そしてワクチンに関する問題等も含めた正しい情報を入し市民の皆様へ随時情報発信をしていく様求めました。



又、どうしてもワクチンを接種できない方への差別的な言動が起きないように対策も求めました。又、ワクチン接種に必要な体制をしっかりと確保する事又コロナ禍の中、高島市長の発信力も駆使してひとりひとりの市民・事業者の皆様へ寄り添い希望を与えられる市政運営を行なう様求めております。

令和3年12月議会において

動植物園の再生事業について

平成30年12月の議会において、動物園に「ゾウ」の導入を求めておりました。令和4年春に導入が決まり、子ども達も楽しみにしていたことと思います。しかし、残念ながら近年のミャンマーの情勢により導入が遅れております。動物園には人気者「ゾウ」は欠かせないとの思いから今後の取り組みについて、引き続き質問しております。



● 未就学障がい児の療育について ● 国旗・国歌について 質問をしました。